慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	高村象平名誉教授著作目録
Sub Title	A bibliography of the writings of Prof. Shohei Takamura
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1971
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.64, No.8 (1971. 8) ,p.779(265)- 786(272)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	高村象平教授退任記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19710801-0265

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

高村象平名誉教授年譜

昭和38年11月	財団法人学徒援護会評議員（現任）
昭和39年２月	財団法人日本学術振興会評議員（昭和42年３月まで）
昭和39年２月	財団法人交詢社常議員（現任）
昭和39年３月	長女信子慶大文学部国文学専攻卒業
昭和39年４月	財団法人大学セミナーハウス理事，昭和43年６月同法人評議員会議長，昭和45年４月同法人理事長（昭和46年５月まで）
昭和39年５月	財団法人能力開発研究所評議員（昭和41年９月まで）
昭和39年６月	財団法人アメリカ研究振興会理事（現任）
昭和39年８月	1967年ユニバーシアード大会招致委員会委員（昭和40年５月まで）
昭和39年８月	財団法人サンケイ・スカラシップ副会長（昭和40年５月まで）
昭和39年９月	日本国連協会神奈川県本部理事（昭和40年５月まで）
昭和39年10月	読売新聞育英奨学会理事（昭和40年５月まで）
昭和39年10月	財団法人全国大学保健管理協会理事（昭和40年６月まで）
昭和39年11月	文部省私立大学審議会長（昭和41年11月まで）
昭和39年11月	財団法人福沢記念育林会理事長（現任）
昭和39年12月	全国大学教授連合会長（昭和45年６月まで）
昭和40年６月	慶応義塾学事顧問（現任）
昭和40年６月	財団法人松永記念館理事（現任）
昭和40年６月	文部省大学学術局経済学商学視学委員会委員長（現任）
昭和40年６月	財団法人三井文庫評議員（現任）
昭和40年６月	財団法人日伊協会評議員（現任）
昭和40年11月	慶大言語文化研究所所員兼任（昭和46年３月まで）
昭和40年11月	千代田生命保険相互会社社員総代（現任）
昭和40年12月	財団法人日本生産性本部経営アカデミー運営委員会委員（昭和44年11月まで）
昭和40年12月	財団法人古河記念基金評議員（現任）
昭和41年１月	アメリカ学会評議員（現任）
昭和41年５月	財団法人慶応がんセンター評議員（現任）
昭和41年６月	財団法人海事産業研究所評議員（現在）
昭和42年３月	日本古文書学会評議員（現任）
昭和43年５月	長男誠一は多根光佐子（島根県八東郡宍道町多根一義次女，慶大文学部社会学専攻卒業）と結婚。
昭和43年10月	神奈川県教育委員会委員，昭和45年10月同委員長職務代理者（現任）
昭和43年11月	大学問題懇談会委員（現任）
昭和44年１月	神奈川県美術展委員会委員長（現任）
昭和44年９月	学校法人開成学園理事（現任）
昭和44年10月	金沢大学法文学部講師（西洋経済史担当，現任）
昭和44年10月	長女信子は伊藤直明（東京都立大学工学部建築学科助教授）に嫁す
昭和45年４月	大阪学院大学大学院商学研究科客員教授（経済史特殊研究担当，現任）
昭和45年４月	学校法人北里学園理事（現任）
昭和45年４月	神奈川県会史編集委員会委員（現任）
昭和45年７月	財団法人神奈川県美術奨学会理事（現任）
昭和46年１月	講書始の儀において「ドイツ・ハンザの経済史的意義」を進講
昭和46年４月	慶応義塾大学名誉教授
昭和46年４月	慶大大学院経済学研究科講師（西洋経済史特殊研究，演習担当，現任）

以上

高村象平名誉教授著作目録*

著　　書

「資本主義第三期」世界経済問題講座　第１部世界経済総論　　春秋社　昭和８年
「西洋経済史」慶応義塾大学講座経済学　　慶応出版社　昭和13年
「近代技術史」　　慶応出版社　昭和15年
「日葡交通史」　　国際交通文化協会　昭和17年
「一般経済史」慶応義塾大学講座経済学　　慶応出版社　昭和19年
「一般経済史　古代・中世」　　慶応出版社　昭和23年
「資本主義の歴史的問題」　　泉文堂　昭和23年
「一般経済史」慶応義塾大学通信教育教材　　第１～３分冊　昭和23年，第４～６分冊　昭和24年
「経済史随想」　　塙書房　昭和26年
「アメリカ資本主義発達史――商業資本の展開と産業資本の確立――」　　金星堂　昭和27年
「西洋経済史」　　（有斐閣全書）昭和29年，新版　昭和46年
「一般経済史」　　慶応通信　昭和32年
「ドイツ中世都市」　　一条書店　昭和34年
「ドイツ・ハンザの研究」慶応義塾経済学会経済学研究叢書第１冊　　日本評論新社　昭和34年
「五年のあしあと」　　慶応通信　昭和40年

共　　書

「日本における経済史学の発達」（小松芳喬氏と共著）人文科学委員会編　人文科学研究叢書第２編　　要書房　昭和24年
「西洋経済史　上巻」（増田四郎・宮下孝吉・小松芳喬・五島茂氏と共著）　　有斐閣　昭和30年
「封建制と資本制」（野村博士還暦記念論文集），（小松芳喬氏他と共編）　　有斐閣　昭和31年
「社会経済史大系　全10巻」（増田四郎・小松芳喬・矢口孝次郎氏と共編）　　弘文堂　昭和35年
「西洋経済史」（経済学全集３）（小松芳喬氏と共編）　　世界書院　昭和40年

編　　纂

「日本塩業史」（正・続２巻）　　日本専売公社　昭和33年
「日本林業発達史　上巻　――明治以降の展開過程――」　　林野庁　昭和35年

訳　　書

「ピグウ　厚生経済学」　第１分冊（小島栄次氏と共訳）　　高原書店　昭和９年
「アンリ・ピレンヌ　中世ヨーロッパ経済史」（増田四郎・小松芳喬・松田智雄・高橋幸八郎・五島茂氏と共訳）一条書店　昭和31年

＊　論文のうち，そののち著書に再録されたものは，このリストから除外してある。

論　　文

「クライミング・ボーイ研究——英国児童労働史の一齣」　三田学会雑誌23巻6号　昭和4年
「ダグラスに対する若干の批判」　同24巻1号　昭和5年
「独逸に於ける企業結合運動瞥見」　産業研究4号　昭和5年
「採炭方法の変化と児童雇傭——英国児童労働史の一齣」　三田学会雑誌24巻4号　昭和5年
「1842年前の炭鉱労働状態——英国児童労働史の一齣」　同24巻7号　昭和5年
「英蘭教区徒弟制度管見」　同24巻11号　昭和5年
「支配階級と陰惨科学」　理財学会会報2号　昭和6年
「少年労働に関する断章」　産業研究5号　昭和6年
「歴史学方法論の一面」　三田学会雑誌25巻6号　昭和6年
「ウィンデルバントに於ける歴史学と歴史の発展」　同26巻1号　昭和7年
「経済史研究序説の一章」　同26巻5号　昭和7年
「経済発展段階説の構造——経済史研究序説」　同26巻10号　昭和7年
「世界石油政策の基調」　世界経済問題2号　昭和7年
「学問と方法論」慶応義塾文化科学研究会編　経済学方法論　大倉書店　昭和8年
「ハンザ同盟に於ける中世的要素」　三田学会雑誌27巻1号　昭和8年
「パラグァイ国の宣戦布告」　世界経済問題8号　昭和8年
「明治初年に於ける諸職人の労働事情——鉄道寮雇用建築労働者の賃銀及び労働時間」　三田学会雑誌28巻11号　昭和9年
「海峡植民地経済史資料の若干」　三田学会雑誌29巻7号　昭和10年
「欧州経済史概説」　慶応義塾商業学校校友会誌　昭和12年
「独逸経済史学界の一面」　歴史と生活1巻2号　昭和13年
「欧州大戦と独逸の歴史刊行物」　日本古書通信95　昭和13年
「独逸経済の現勢」　現代の経済2巻3号　昭和13年
「西洋経済史の文献若干」　同2巻6号　昭和13年
「英吉利の対支経済侵略——その史的素描」　同3巻8号　昭和14年
「明治初年の日韓貿易」　歴史と生活3巻2号　昭和15年
「独逸ハンザ」　社会経済史学10巻11・12号　昭和16年
「西洋経済史研究の手懸りと文献80種」　経済往来16号　昭和16年
「ホームステッド法制定前——アメリカ土地制度史の一齣」　三田学会雑誌40巻7・8・9号　昭和22年
「中世西欧の国家構造」　同41巻3号　昭和23年
「中世プロイセンの独逸植民村落に関する若干の問題」小野武夫博士還暦記念論文集刊行会編　西洋農業経済研究　日本評論社　昭和23年
「アメリカ資本主義の形成」　アメリカ研究4巻5号　昭和24年
「最近十年間の米国経済史学界」　社会経済史学16巻3号　昭和25年
「経済史の理解」　理財学会誌10号　昭和25年
「櫛籠村の協同研究」　三田学会雑誌44巻2号　昭和26年
「欧米における地方史研究(一)——アメリカの場合——」　地方史研究創刊号　昭和26年
「白耳義，和蘭経済史に関する近時の業績」　三田学会雑誌44巻5号　昭和26年
「世界各国における土地改革(A)世界史過程(四)南北戦争と奴隷解放」農地改革記録委員会編　農地改革顚末概要　昭和26年
「欧米各国における大圃場成立の過程(四)米，プランテーション」　同書　昭和26年
「アメリカ西部都市史の研究」　社会経済史学17巻4号　昭和26年

「西洋経済史について」　ブックス56号　昭和29年
「近世(一)」（増田四郎・宮下孝吉・高村象平・小松芳喬共編）西洋経済史　上巻　有斐閣　昭和30年
「日本資本主義の変遷」　日産自動車株式会社第2回労働講座シリーズ第8講　昭和31年
「西洋経済史」慶応義塾経済学会編　日本における経済学の百年上巻　昭和34年
「ヨーロッパの道」図説世界文化史大系　第7巻　ヨーロッパ中世　角川書店　昭和34年
「中世後期の概説」（増田四郎・小松芳喬・高村象平・矢口孝次郎共編）社会経済史大系　第3巻　昭和35年
「ヤコブ・シュトリーダー」　同　第9巻　昭和35年
「十四世紀後半リューベック市会の構成」　三田学会雑誌53巻7号　昭和35年
「イギリス経済史研究と野村先生」　同53巻10・11号　昭和35年
「戦後経済史におけるヨーロッパの地位——技術革新と関連して」　三田評論691号　昭和45年
「ドイツ・ハンザの経済史的意義」　三田評論702号　昭和46年

辞（事）典

「現代経済学辞典」　岩崎書店編集部編　昭和25年
　執筆事項　一般経済史
「社会科学辞典」　史学社　昭和25年
　執筆事項　ギルド
「世界歴史事典　全25巻」　平凡社世界歴史事典編集部編　昭和26～30年
　執筆事項　絹織物工業——西洋，ハンザ同盟
「入門経済学辞典」山本登，吉田啓一編　泉文堂　昭和27年
　執筆事項　経済史研究の手引
「児童百科事典　全24巻」　平凡社　昭和26～32年
　執筆事項　ハンザ同盟
「平凡社経済学事典」　昭和29年
　執筆事項　アシェント，イーストランド会社，インヌング，エンコミエンダ，親方，親方組合，海商会社，海賊，価格革命，ガリー船，ギルド，クライミング・ボーイ，市場強制，私拿捕船，ジーフェキング（ハインリヒ），自由都市，シュトリーダー（ヤーコブ），商人ギルド，職人(工)，職人組合，スペイン会社，ツンフト，ツンフト強制，特許会社，徒弟，西印度会社，東印度会社，モスコウ会社，ハンザ，ラーフェンスブルク会社，商業革命，チューリップ恐慌，徒弟条例，同職組合，特権都市，南海会社，年期雇人（契約移民），ハンセン（ゲーオルグ），メスタ，レーデライ，レーリッヒ（フリッツ），レヴァント会社
「平凡社世界大百科事典　全32巻」　昭和30～34年
「平凡社世界大百科事典　全24巻」　昭和39～43年
　執筆事項　アルメンデ，アムステルダム，アシェント，ウィスビー，遠隔地商人，価格革命，ガレー船，クライミング・ボーイ，コッゲ，香料貿易，采地，商業革命，シェアクロッピング，スティールヤード，チューリップ恐慌，にしん貿易，バルディ家，ハンザ，東ドイツ植民地運動，ブレーメン，ベルゲン，ベルッチ家，リッターグート
「入門経済学辞典改訂版」山本登，吉田啓一編　泉文堂　昭和31年
　執筆事項　経済史研究の手引
「社会科学大辞典　全20巻」　鹿島研究所出版会　昭和43年～
　執筆事項　シュトリーダー，ハンザ同盟，バルチック貿易

書　評

「経営経済研究　第２冊」　三田新聞234号　昭和４年
「米国の経済的進歩」　同243号　昭和４年
ドォプシュ「世界史上の実物経済と貨幣経済」　三田学会雑誌25巻５号　昭和６年
「英蘭児童労働史研究の一寄与――ロブスンの新著を読みて」　同25巻11号　昭和６年
「グラス教授の大事業略史」　理財学会会報５号　昭和７年
慶大野村教授訳アシュレーの「英国経済史」　読売新聞（５月15日）　昭和７年
レッドフォド著「英国経済史」　社会経済史学２巻３号　昭和７年
「瑞典史上に於ける自然経済と貨幣経済」　理財学会会報６号　昭和７年
「十九世紀に於ける欧米の経済発展――ノオルスの遺著を読みて」　三田学会雑誌26巻８号　昭和７年
フリッツ・レェリッヒ「ハンザ同盟の成立」　理財学会会報７号　昭和７年
「欧羅巴統一運動の一形態」　経済春秋３号　昭和７年
「『マックス・ウェバアの理想型に関する一考察』を評す」　慶応義塾大学経済学部学生論文集（理財学会創立三十年記念）　昭和８年
ホランド・ロォズ「古代の地中海」　三田学会雑誌27巻６号　昭和８年
「『三つの経済学』の邦訳本を手にして」　三田新聞304号　昭和８年
「西班牙経済史に関する三文献」　三田学会雑誌27巻９号　昭和８年
「『西洋中世史史料及考証』第一・二・三輯」　同27巻12号　昭和８年
田崎博士著「一般経済史（序論・原始時代）」　社会経済史学４巻８号　昭和９年
ハミルトン教授の「西班牙に於ける価格革命」　三田学会雑誌29巻１号　昭和10年
沢田章著「明治財政の基礎的研究（維新当初の財政）」　同29巻２号　昭和10年
「世界の歴史雑誌」　歴史と生活１巻２号　昭和13年
「ハンザ出現前のゴオトランドの通商」　三田学会雑誌32巻３号　昭和13年
大塚久雄著「株式会社発生史論」　社会経済史学８巻２号　昭和13年
プロトニコフ編纂，橋本弘毅訳「重商主義論叢」　三田新聞394号　昭和13年
シュロォテ著「十八世紀以降の英吉利対外貿易の変遷」　三田学会雑誌33巻１号　昭和14年
大塚久雄著「欧州経済史序説」　三田新聞408号　昭和14年
山本与吉・井出貢吉編「世界通信発達史概観」　同412号　昭和14年
フリッツ・レンケン「独逸騎士団のフランドル貿易」　社会経済史学９巻７号　昭和14年
フロォレンス・イイドラァ「十六世紀中葉アントワァプ商人の伊太利貿易」　同９巻７号　昭和14年
ミックヴィッツ「十六世紀レヴァルの貿易」　三田学会雑誌33巻12号　昭和14年
羽原又吉著「アイヌ社会経済史」　同34巻１号　昭和15年
エントホルト・ボイチン共著「ブレエメンの東北欧貿易史」　同34巻２号　昭和15年
カァルシテン「1525年東プロイセン農民一揆」　社会経済史学10巻１号　昭和15年
「欧州中世都市の市印と船舶」　――ダンチヒ　経済住来７号，アムステルダム　同11号，キイル　同12号　昭和15年
「独逸農民史の資料集と文献集――ギュンタ・フランツ教授の二編著」　三田学会雑誌35巻２号　昭和16年
「独逸ハンザに関する近著三種」　同35巻６号　昭和16年
「独逸経済史研究の一傾向――フランツ教授の近業について」　同35巻９号　昭和16年
剣橋「欧州経済史の刊行」　歴史と生活４巻６号　昭和16年
シライオック「北米植民地時代の農業経営における民族的特徴」　社会経済史学12巻１号　昭和17年
上原専禄著「独逸中世史研究」　三田学会雑誌36巻７号　昭和17年
幸田成友著「日欧通交史」　史学21巻２号　昭和18年

テオドール・マイヤー著，上田作之助訳「ドイツ近世経済史」　一橋新聞363号　昭和18年
小葉田淳著「史説日本と南支那」　三田学会雑誌37巻７号　昭和18年
イーヴンスン著「アメリカ炭鉱業史」　同42巻７・８号　昭和24年
ブラウン教授著「合衆国の歴史地理」　アメリカ研究４巻11・12号　昭和24年
高橋幸八郎編著「近代資本主義の成立」　史学雑誌60編３号　昭和26年
宮下孝吉著「経済史」　社会経済史学18巻１号　昭和27年
ブラウン著・渡辺誠毅訳「アメリカ資本主義発達史」　図書新聞177号　昭和28年
矢口孝次郎著「資本主義成立期の研究」　慶応義塾大学新聞100号　昭和28年

随　筆

「リュベック市の印璽（1281年）」　社会経済史学７巻４号　昭和12年
「独伊の大学を覗く」　世界知識11巻２号　昭和13年
「独逸大学生活の或る裏面」　現代の経済３巻４号　昭和14年
「中世経済史に就いて」　三田新聞417号　昭和14年
「一般経済史と時代区分」　三田新聞521号　昭和18年
「アメリカ民主主義の形成」　新潟医大新聞17号　昭和23年
「経済史の研究に就いて」　神奈川大学新聞２号　昭和24年
「経済史の学び方（講演筆記）」　慶応義塾大学三田経友会　経友ニュース７巻４号　昭和30年
「青色の十字架」　慶応義塾大学新聞149号　昭和30年
「私の補講」　慶応義塾大学新聞158号　昭和30年
「年頭に希求すること」　慶応通信94号　昭和31年
「学問の沈滞は君自身の事ではないか」　三田新聞767号　昭和31年
「スプートニクの波紋――理工科系学生の増員」　同811号　昭和32年
「跋　慶応義塾図書館蔵和漢書善本解題」　昭和33年
「この頃思うこと」　稲荷山発刊十周年記念号　昭和35年
「思索の時間を」　開成新聞64号　昭和35年
「受験生にのぞむ」　螢雪時代30巻８号　昭和35年
「一層の発展を祈る（創立八十周年に寄せる）」　明治大学新聞874号　昭和35年
「私の観戦」　早稲田スポーツ10号　昭和35年
「ハロー京都」　京都新聞28389号（11月11日）　昭和35年
「会社経営と税法に欠陥」　朝日新聞26881号（11月18日）　昭和35年
「独立自尊のこと――慶応義塾の教育方針」　三田新聞受験生特集号　昭和36年
「自らの立つ基盤を考えよ」　慶応義塾医学部新聞130号　昭和36年
「アジア教育者会議にあたって」　三田評論591号　昭和36年
「技術教育の充実――就任に当っておもう」　私学新報17号　昭和36年
「国，私立をとわぬ公正な企画を」　大学受験新聞１号　昭和36年
「個に徹せよ」　連慶ニュース９号　昭和36年
「現在の教育制度に問題」　大学受験新聞２号　昭和36年
「ぜひ欲しい『自分の時間』」　大学受験新聞５号　昭和36年
「第一回学長会議挨拶」　日本私立大学連盟第一回学長会議録　昭和36年
「証券研究部創立五十周年によせる」　慶応義塾大学経済新人会　証券研究部部史　昭和36年
「自己の境遇に愛情をもて」　慶応義塾医学部新聞141号　昭和37年
「年頭所感」　私学新報42号　昭和37年

「私学団結のリーダーシップを」　教育学術新聞300号　昭和37年
「愛される警察官」　警察文化14巻5号
「生涯の友人は学生時代に」　稲荷山8号（通刊36号）　昭和37年
「このごろの塾生」　螢雪時代32巻5号（7月臨時増刊号）　昭和37年
「生粋の三田ッ子」　政財界1巻4号　昭和37年
「Life in a Japan University」　Asia Scene　No. 77　Aug. 8　昭和37年
「第二回学長会議」　大学時報10巻50号　昭和37年
「独自の学風と伝統——祝辞」　早稲田学報早稲田大学創立八十周年式典号（通刊726号）　昭和37年，（慶応義塾報108号　昭和37年）
「常に基礎の充実を」　慶応義塾医学部新聞152号　昭和38年
「年頭所感」　私学新報71号　昭和38年
「体育会創立七十周年記念式典挨拶」　体育会誌復刊第13号　昭和38年
「発展への踏み台として」　慶応義塾医学部新聞154号　昭和38年
「学生の自治活動について」　1963年度慶応義塾大学塾生案内　昭和38年
「大学生活」　同
「学長のインタビュー　慶応義塾今と昔」　第三文明29号　昭和38年
「三十周年に寄せる」　自動車部創立三十周年記念誌部報　昭和38年
「お祝いの言葉」　神戸山手学園創立四十周年記念式典次第　昭和38年
祝辞（創立三十周年記念式典）　育英会時報52号　昭和38年
「第一に『大学制度問題』の検討」　日本教育新聞2685号　昭和39年
「大学生新人サラリーマンに寄せる大学総長のメッセージ」　早稲田公論20号　昭和39年
「人間としての完成を」　慶応義塾医学部新聞163号　昭和39年
「甲辰年頭所感」　大学時報11巻58号　昭和39年
「大隈重信生誕百二十五年記念祭式辞」　早稲田学報復刊18巻1号　昭和39年
「故板倉卓造先生追悼記事——高村塾長の弔辞」　法学研究37巻2号　昭和39年
「終刊の辞」　福沢諭吉全集第二十一巻　昭和39年
「第四回学長会議議事要旨」　大学時報11巻59号　昭和39年
「授業料国立は安すぎる“六・三・二・四制に改革しては”」　夕刊新聞3月31日　昭和39年
「新入生諸君を迎えて」　1964年度慶応義塾塾生案内　昭和39年
「塾生としての自覚を」　慶応通信197号　昭和39年
弔辞（小島栄次君）　三田学会雑誌　小島栄次教授追悼特集号　57巻7・8号
「粗悪書も一掃を」　出版クラブだより復刊2号　昭和39年
「留学を望まれる諸君に」　サンケイ新聞（9月28日）　昭和39年
「大学は学問の場（塾長就任講演）」　慶応通信199号　昭和39年
「義塾の新教育方針について」　塾2巻5号　昭和39年
「大学はかくありたい」　三田評論632号　昭和39年
「志を天につなぎ」　麻布会設立趣旨書　昭和39年
「アンケートへ答える」　点描5号（大谷高校）　昭和39年
「Vocational Training for the Undergraduate」　Asia Scene　Dec. 1　昭和39年
「Academic Exuberance is Lifeblood of Universities　The Japan Times　Dec. 8　昭和39年
「私立大学を希望する諸君へ」　私立大学をめざす友へ　大学通信社（編）　昭和39年
「ドイツ近世都市と宮廷音楽」都市と宮廷の音楽　ドイツ・オーストリア編　解説書　昭和39年
「Keio University—Long and Brilliant Tradition」　The Mainichi Daily News Jan. 1　昭和40年
「周囲に目を向ける余裕を」　慶応義塾医学部新聞174号　昭和40年

「和して同ぜずを望む」（私の人間像——大学学長に聞く(20)　東京新聞8133号（2月27日）　昭和40年
「諸大学式典における高村塾長の祝辞」　三田評論636号　昭和40年
「自主的な診療人の養成を」　慶応義塾医学部新聞178号　昭和40年
「六十年史発刊に際して」慶応義塾弁論部六十年史　慶応通信株式会社　昭和40年
「九十周年記念式典に際しての祝辞」　慶応義塾幼稚舎年鑑1964年　昭和40年
「私の愛する詩文」　日本8巻12号　昭和40年
「私の意見——私大財政の救済」　日本経済新聞28888号（5月12日）昭和41年
「本書の読者に寄せる言葉」　青年ハンドブック　昭和41年
「耳に残る“偶然問答”」　朝日新聞28865号（5月12日）　昭和41年
「私大財政の救済策」　P・H・P217号　昭和41年
「小泉先生と学問振興」　塾4巻3号　昭和41年
「なぜ経済史学を選んだか」　サンケイ新聞8581号（6月28日）　昭和41年
「善を行うに勇なれ」　文芸春秋44巻7号　昭和41年
「小泉先生に学ぶ」　オール生活21巻8号　昭和41年
「小泉先生と学長二題」　三田評論652号　昭和41年
「先生の遺影の前で」　小泉信三先生追悼録　新文明社　昭和41年
「大学セミナーハウスの効用」　セミナーハウス・ニュース6号　昭和41年
「師弟通信（高村象平先生，服部謙太郎様）　三田評論653号　昭和41年
「私の古典——ソーロー『森の生活』」　エコノミスト44巻39号　昭和41年（エコノミスト編集部編「私の古典」　毎日新聞社　昭和42年）
「東京都内での『森の生活』」　心19巻11号　昭和41年
「いわゆる新制大学について」　育英会報12月号　昭和41年
「私立大学論」　三田評論656号　昭和42年
「素人のみた海上輸送の技術革新」　海事産業研究所報10号　昭和42年
「私の座右の銘——中学生に与える言葉」　中学校163号　昭和42年
「新しい経済史」　経済セミナー133号　昭和42年
「久保田さんの憶い出」　久保田万太郎全集月報2　昭和42年
「意志と愛情の人」　小泉信三全集月報3　昭和42年
「信念の人，愛情の人，精進の人」　心20巻7号　昭和42年
「新しい人口史の研究」　経済セミナー135号　昭和42年
「〈人生において真に価値あるもの〉心の友」　社内報資料通信111号　昭和42年
「捨てる」　経済セミナー138号　昭和42年
「大学拝見」　大学時報16巻76号　昭和42年
「引合わないこと」　日本之経済11巻10号　昭和42年
「セミナーを指導して」　塾5巻5号　昭和42年
「大学の心臓」　経済セミナー140号　昭和42年
「人不足」　同142号　昭和43年
「上と下と」　信濃教育974号　昭和43年
「転石苔を生ぜず」　毎日新聞32962号（1月12日）　昭和43年
「信念の人・愛情の人」　新文明18巻3号　昭和43年
「マスプロ教育」　経済セミナー144号　昭和43年
「明治百年と福沢先生」　季刊公民講座32　昭和43年
「一メートル五九」　心21巻10号　昭和43年
「学校林にかける夢」　塾6巻5号　昭和43年

高村象平名誉教授著作目録

「造船の現代化」　海事産業研究所報30号　昭和43年
「都市にも個性を」　毎日新聞33293号（12月11日）　昭和43年
「叱る慶応義塾――私の体験」池田弥三郎編「回想慶応義塾大学100年」　株式会社ビデオ出版　昭和44年
「歴史研究の生命」　神奈川県史研究４号　昭和44年
「アメリカ企業者史学の新動向」　財団法人アメリカ研究振興会会報（８月25日）　昭和44年
「評論家の氾濫」　心情園３巻９号　昭和44年
「宇尾野君を憶う」　三田学会雑誌62巻10・11号　昭和44年
「『まるさん』のあれこれ」回想の石丸重治　三田文学ライブラリー編　昭和44年
「五浦遊記」　心22巻12号　昭和44年
「澄し汁のお雑煮――わが家の正月の思い出」　三田評論689号　昭和45年
「道路は誰のもの」　信濃毎日新聞（１月26日）　昭和45年
「まえがき」　大学基準協会会報18号　昭和45年
「お祝いのことば」　大阪学院大学通信創刊号　昭和45年
「読書とくに古典へのすすめ」　慶応義塾大学報27号　昭和45年
「義塾評議員改選に寄せる」　三田評論697号　昭和45年
「船舶の安全性」　海事産業研究所報54号　昭和45年

座　談　会

「学校と教育のあり方」　財政経済535号　昭和36年
「新年度の教育の課題と展望（各界代表七人の立場からの座談会）」　教育ニュース25号　昭和36年
「教育の機会均等と育英制度」　大学時報10巻42号　昭和36年
「税制調査会はかく考えている」　同10巻45号　昭和36年
「録音本番中（高村象平，高尾三郎対談）　ＴＤＫタイムズ52号　昭和37年
「座談会――学長早慶戦」　螢雪時代32巻３号　昭和37年
「近畿府県知事との懇談会」　大学時報10巻49号　昭和37年
「今日の大学問題を語る」　大学時報11巻52号　昭和38年
「私学の振興について」　文部時報1030号　昭和38年
「国と私立大学との関係について」　大学時報11巻55号　昭和38年
「若き世代への苦言と期待」　日経人48号　昭和38年
「塾風とはなにか――教職員の立場から」　塾４巻２号　昭和41年
「日吉木曜会――高村象平教授を囲んで」　塾４巻４号　昭和41年
対談閑話「私学に生きる」　毎日新聞　昭和42年（８月12. 13. 15～20. 22. 23日）
「期待される大学像」　三田評論666号　昭和42年
「大学はどこへいく」　塾６巻６号　昭和43年
「戦後教育を洗い直す」　山陽新聞（１月３日）　昭和44年
「大学問題（土曜放談）」　同（２月15日）　昭和44年
「学園における学生の地位」　早稲田学報23巻４号　昭和44年
「高村象平君に聴く――この人を囲む一時間――」　塾８巻１号　昭和45年
「北海道の私大はどうあるべきか」　クオリティ５巻７号　昭和45年
「学生生活の問題点」　大学時報19巻93号　昭和45年

（酒田利夫作成）

Tanso Hirose (1782—1856) as a Statesman in the Closing Years of the Shogunate (1615—1867)

by Takao Shimazaki

Tanso Hirose, 1782 (the 2nd year of Tenmei) —1856 (the 2nd year of Ansei), was born in Hida Province of Kyushu, which was directly administered by the Shogunate. Ever since his early days, he exhibited his literary talent, studying the *Four Books and Five Classics of Confucianism* (*Shisho Gokyo*) and poetry composition under the guidance of such scholars as his own father, Saburoemon whose pseudonym was Choshunan-Toshū and his uncle, Heihachiro calling himself Shūfūan-Gekka as pseudonym.

As he grew up, he attended the Kamei Private School in Fukuoka, which was directed by Nanmei Kamei and his son, but on account of his delicate constitution, he returned to Hida. Ever since, he devoted himself to learning and poetry at home. He found the private school, Kangien, and educated 3,000 young people. He was a philosopher, poet, moralist and an educationist. He was also an economist, often offering statesmanlike advices against existing social evils. It is natural that such a great scholar came into being in the cultivated and ideologically rich atmosphere of Kyushu that had before produced such great thinkers as Baien Miura and Banri Hoashi, his contemporary.

Tanso studied Shushi Learning, Yomei Learning, the Old Learning and Lao-tze=Chung-tze Learning as well as Buddhism, Shintoism and the Western Learning, establishing himself as an eclectic of these thoughts. His theory was centered around his religious belief in the idea of "Reverence for Heaven", and engaged himself in the training of his students along that line. His idea was developed in his three works: the *Yakugen*, the *Gifu*, and the *Sekigen*. In the *Yakugen* was elucidated the "Reverence for Heaven" in detail through the discussion on the "Heaven's Will", in the *Gifu* was clarified the "Laws of Nature"; and in the *Sekigen* was explained the Lao-tze's philosophy of life (Sei-su).

The time, when Tanso was active, can be considered internally as typically represented by the Tenpo Reform by Lord Mizuno, and Heihachiro Oshio's Revolt, that were none but exhibitions of the declining age of the Shogunate when the provincial feudal lords under its control were seriously suffering from the straitened financial conditions. And externally, the nation was under the pressing impact from the Western countries, such as the Commodore Perry's visit at Uraga, requesting the open-door of Japan for trade in 1853.

With the object to relieve the adverse finances of the provincial governments, Tanso wrote the book *Ugen*. In this work, he stressed the importance of industry and economy as practical